

厚生労働省神奈川労働局  
平塚労働基準監督署発表  
令和5年6月30日(金)

令和5年6月30日

【照会先】

平塚労働基準監督署

署長 柴田 英彦

安全衛生課長 柰野 彰紀

(電話)0463(43)8615

## 全国安全週間に向けて

ろうさいゼロ

## ～630～労働災害ゼロの日パトロールを実施

平塚労働基準監督署(署長 柴田 英彦)では、全国安全週間(7月1日から7月7日まで)を実りあるものにするため、昨年度から6月30日を「ろうさいゼロ」の日(630)と設定し、優れた安全衛生活動を実施している管内事業場の労働災害防止活動を発信することにより、地域における安全衛生水準を向上させることを目的に安全パトロールを実施しており、今回で2回目となります。

今回は、平成29年度に安全衛生に関する神奈川労働局長表彰を受賞している株式会社小松製作所湘南工場の協力のもと、令和5年6月27日、安全パトロールを実施しました。

### 1 パトロール概要

日時 令和5年6月27日(火)

パトロール対象事業場 株式会社小松製作所 湘南工場  
(平塚市四之宮3-25-1)

パトロール実施者 平塚労働基準監督署 署長、安全衛生課長、ほか 5名

パトロールの開催にあたって湘南工場長様から湘南工場の概要や安全衛生の基本方針、安全基本作業15か条など労使が協力をして安全衛生活動を行っている説明を受けました。

そして、株式会社小松製作所では、行動指針の一つとして

**S**afety (安全)

**L**aw (コンプライアンス)

**Q**uality (品質)

**D**elivery(納期)

**C**ost (コスト)



を掲げ、頭文字から **SLQDC** と呼び、その並びに沿って、**安全と法令遵守を重要視**して、ものづくりを行っている」と説明がありました。

次に、総務部安全・環境課長様より湘南工場の安全の取り組みの紹介を受けました。

過去の災害やトラブルを風化させずに教育に生かしていること、危険予知活動など労働者の安全意識を高めるための職場単位での活動や自社の労働者のみではなく、湘南工場内における製造に関わる請負事業者から工場内の清掃事業者、さらには工事関係者まで、工場内の**ルール遵守の取り組み**を行っている」と説明がありました。



また、開発本部企画管理グループ GM 様からは**製造者(メーカー)として使用者(ユーザー)の安全性を高める**マルチモニターの開発や無人運行システム、眠気検知システム、転倒警報システムなど安全性の向上にかかわる開発研究の説明がありました。

## 2 パトロール実施

株式会社小松製作所は国内屈指の建設機械メーカーですが、湘南工場はモニターや各種制御装置など建設機械の心臓部に関わる開発製造を行っており、建設機械、鉱山機械に関する建機コンポーネントである車体情報モニターの生産工程がありました。この生産工程ではプリント基板にコンデンサなどの IC 電子部品を実装し、加熱・冷却、はんだ付けを行い、機能検査を通過した基板のユニット組み立てを行っています。

今回、この生産工程について安全パトロールを実施しました。

工場内は機密事項の関係でパトロール写真の掲載はできませんが、安全基本作業15か条を基本に、安全通路における人と物の通行帯を分離するのみでなく、各装置の扉に関する開放範囲の見える化が行われ、各フロアに通ずる階段では転倒、転落防止を注意喚起する掲示と併せて自動音声アナウンスが流れていました。機械設備における「はさまれ・巻き込まれ」防止対策として、囲いや扉のインターロック装置の設置、光線式安全装置の取り付けが随所に行われていました。

また、部品庫における台車の重量制限や耐熱手袋の着用など保護具によるリスク低減も積極的に取り組まれていました。

湘南工場でも、安全に関する感受性を高めるため「安全道場」という教育設備を設け、湘南工場のみではなく、海外を含めた他の拠点で発生した過去の重大災害が掲示され、いつでも

危険の再確認が行えます。

適切な状態ではない手工具の展示や転倒のリスクを知るために傾斜のついた階段や各種素材や状況を模した作業床の設置、腰痛防止のための重量体感箱にて安全意識の高揚を図っています。

この他、危険予知活動の手法として、動画を使用しており、パトロール参加者で視聴しました。

(写真右)

この動画は、各職場の労働者が作成したもので、玄人感がなく、シンプルなものですが独自性を感じました。

動画の作成を作業員自身が行うことで、より安全意識を高められるものと思われました。



現在の安全道場は、発展途中のものであり、今後、一層の充実を図るとのことです。

パトロールの最後に、現場ジオラマ展示スペースにて湘南工場長様より、労働力不足、オペレーターの高年齢化、安全、コスト、工期などに関わる現場の課題解消へ株式会社小松製作所が取り組むダンプトラックの無人運転システムや安全で正確な熟練オペレーターと同様の施工運転技術をもつ自動制御機能付き建設機械(地山掘削用建設機械)による生産性の向上、エネルギーの効率化などの説明を受けました。



### 3 意見交換

工場内の熱中症対策や荷役作業での取り組みなどの意見が交わされました。安全衛生活動を従事させるため、平塚労働基準監督署から、高年齢労働者対策は高齢者のみならず万人に向けた対策でもあるため、積極的な取り組みを望んでいること、危険の見える化にピクトグラムを用いた安全表示の工夫を提案しました。

平塚労働基準監督署署長からパトロール開催のあいさつにて、以前、コマツウェイと呼ばれる「コマツの行動基準」の紹介に関する講和を聞いたことを述べ、「コマツの行動基準」にある「安全で安心して働くことのできる職場環境の実現」に向けて取り組まれることを願っていること。

### 4 あとがき

安全を最優先とした企業方針を持つ、株式会社小松製作所湘南工場の安全活動をパトロールにて確認しました。

株式会社小松製作所様では、「コマツウェイ」と呼ばれる行動基準で「安全で安心して働くことのできる職場環境の実現」を掲げ安全最優先にて、労働災害ゼロを推進しております。各事業者様におかれましても、労働災害ゼロに向けて、第96回全国安全週間を機に経営トップから作業員まで安全の機運を高め、安全衛生活動を積極的に取り組んでいただきたいと存じます。

また、今年から労働安全衛生法(第6条)に基づき、労働災害の防止に関し基本となる目標、重点課題等を厚生労働大臣が定める5か年計画である第14次労働災害防止推進計画(令和5年度から令和9年度まで)が始まりました。

平塚労働基準監督署では、期間中の労働災害による死亡者0名、休業4日以上之死傷災害の数を令和9年までに令和4年と比べ5%以上減少させる目標を掲げ、労働災害防止の取り組みを行っていきます。

※ 平塚労働基準監督署は、管内（平塚市・秦野市・伊勢原市・大磯町・二宮町）における労働災害の更なる防止を図るため、引き続き「630活動」を展開していきます。地域の取り組みを活性化させるため、好事例の収集発信に努めています。好事例の発信や応募方法については神奈川労働局のホームページ内にある「労働基準監督署からのお知らせ」に掲載しています。ご確認ください。